

久留米大学医学部附属臨床検査専門学校 令和5年度学校評価委員会報告書

今年度も学校評価委員会は Zoom ミーティング形式で実施した。各委員には事前に次の資料を送付し、各委員からの意見が短時間で確認できるように配慮を行った。なお、昨年度まで配布していた入学試験結果に関する資料は、令和6年度入試を実施していないため添付していない。

〈配布資料〉

- ・ 令和5年度学校自己評価報告書
- ・ 資料1 令和6年3月 第70回臨床検査技師国家試験結果
- ・ 資料2 令和5年度 就職・進学先一覧

1. 日 時 令和6年6月10日（月） 19：13～19：58

2. 場 所 久留米大学教育2号館1階教務事務室
(委員会はZoomミーティング形式で開催)

3. 出席者 鹿毛 政義委員 純真学園大学保健医療学部医療工学科(特任教授)
浮池 俊憲委員 卒業生代表
松永 千佐子委員 保護者代表
西 昭徳委員 校長

武谷 三恵 医療検査学科教授(教務主任)
中島 俊弘 医学部事務部専門学校事務室 事務室参事

4. 次 第

1. 校長挨拶
2. 出席委員挨拶
3. 報告書説明

自己評価10項目のうち、教育理念・目標及び教育活動の2項目については武谷教務主任から、その他の8項目については中島事務室参事から報告書の概要を説明。主な変更点や説明を加えた項目については次のとおり。

(1) 教育理念・目標について

b 職業教育の特色について、文頭の2行は誤表記であったため削除し訂正することを説明。

c 将来構想として掲げていた次世代型臨床検査技師の育成については、本校を発展的に改組し、令和6年度に4年制の医学部医療検査学科を開設する運びとなったことを改めて報告。厚生労働大臣の承認を受けた臨床検査技師養成校として、第1期生77名が入学したことも併せて報告。

- d 教育目標と育成人材像が業界ニーズを踏まえているかという項目については、令和3年10月に医師の働き方改革に基づく臨床検査技師の業務拡大（タスク・シフト/シェアリング）を定めた法改正が施行されたことに伴い、令和4年度以降の入学生を対象とした臨床検査技師養成カリキュラムを改正し、これに伴ってシラバスやホームページに明記する具体的な教育目標にも改正内容を反映させている旨を説明。

(2) 学校運営について

- c 教育活動等に関する情報公開の一手段としてこれまで活用してきた学校・入試案内パンフレットについては、2024（令和6）年度以降の募集を停止したため作成していないことを報告。

(3) 教育活動について

- d 実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムの編成及び実施については、「法改正に対応したカリキュラムの実施」、「臨地実習におけるチーム医療への参加」、「臨地実習開始前の指導」、「低学年に向けた臨地実習報告会の開催」及び「学生の学会、症例検討会、講習会の参加支援」の5項目についての実績を報告。

特出点として、「臨地実習におけるチーム医療への参加」において、令和4年度から実施している医療安全会議への参加に加え、令和5年度からはICT（感染制御チーム）・AST（抗菌薬適正使用支援チーム）・NST（栄養サポートチーム）活動と消化管内視鏡検査、質量分析医学応用施設の見学を大学病院の実習学生が全て経験できるようにしたこと、「低学年に向けた臨地実習報告会の開催」において、臨地実習終了後に3年生による低学年向けの臨地実習報告会を行うことで、各施設での臨床検査の在り方、多職種連携の様子、実習場面で学生自身に求められることなどを低学年の学生に早期に意識付けさせ校内での学修に取り組むことを促す効果があったことなどを挙げ、令和5年度の評価は3（ほぼ適切）から4（適切）に引き上げたことを説明。

- g 職員の能力開発のための研修等については、「学外主催の研修会・講演の受講、学会参加等による、教育・実務に関する研鑽」、「臨床検査技師国家試験解析研究チームへの参画」、「論文発表、学会発表、学位取得」、「学生による授業評価アンケート」及び「久留米大学が実施する研修会の受講」の5分野での実績を報告し、研修会・講演会の受講や学会参加等による教育・実務に関する研鑽も活発に行われたことから、令和5年度の評価は3（ほぼ適切）から4（適切）へ引き上げたことを説明。

(4) 学修成果について

- a 令和5年度国家試験の結果について、資料1に基づき報告。新卒者合格率は98.1%（52名中51名合格）で全国新卒者の平均88.0%を上回り、九州地区養成校の中で本校の合格率は一位であったことを報告。また、毒劇物取扱責任者、心電図検定等の他の資格取得状況についても報告。

鹿毛委員から、本校における第2種ME技術者の受検及び取得状況について質問があり、毒劇物取扱責任者ほど受験者が多くはなく、例年では資格取得者が数名出るか出ないか程度の状況であり令和5年度についてはいなかったことを説明。

- b 卒業生の就職実績について、資料2に基づき報告。令和5年度卒業生も希望する学生全員が就職を実現したことを報告。昨今の傾向として、検査センターへの就職に加え、健診センターや治験関係機関など病院以外への入職者が増えている状況なども説明。

(5) 学生支援について

- d 学生の健康管理体制については、講義中又は実習中に自立歩行や車椅子移動が困難になる体調不良者に備え令和5年度はストレッチャーの購入を行ったことを報告。

(6) 教育環境について

- a 施設・設備について、西校長から次年度の施設利用環境について補足説明が行われた。令和6年度末に医学部医療検査学科校舎のリニューアル工事が完了予定であることから、令和7年度からは医療検査学科の学生とともに臨床検査学校新3年生も校舎の利用が可能となる見込みである旨を説明。

(7) 学生の受入れ募集

- ab 本校は2024（令和6）年度以降の入学者の募集を停止し、令和7年度で閉校の予定であるため、今後の募集活動は実施していないことから、評価の記載をしていないことを報告。

(10) 社会貢献・地域貢献について

- b 学校としては、コロナ禍の状況下では積極的にボランティア活動を奨励・支援することができなかったが、令和5年度についてはコロナ以前の状況に戻りつつあるが、一番良い評価（4 適切）までは至っていないと判断していることを報告。

4. 質疑応答（主な意見交換等）

鹿毛委員から、本校での国家試験の高い合格率は、教員の情熱と細かな教育的配慮など総合したサポート体制により、一人ひとりの学生に向き合う方針がもたらしていることを認識させられた旨の意見が出された。

保護者代表の松永委員からは、保護者会等から学校の状況がようやく分かかってきた状況下ではあるが、今回の学校自己評価書の説明を受けて、安心して子供を預けられるという感触が得られたとの意見が出された。

最後に、鹿毛委員から、自身の所属大学の状況を踏まえて新カリキュラムへの移行と医学部医療検査学科（入学定員は約 2 倍）への移行が重なるため、教員への負担増を心配する意見が出された。

これに対し、武谷教務主任からは、専門学校での新カリキュラム対応をやりながら、今後のカリキュラムの動向を見据え新学科カリキュラムの準備ができたため大変ではあったが、逆に良かったと感じている旨を説明。

また、西校長からは、教員体制としては専門学校と新学科の教員体制を明確に線引きせず、お互いに双方の学生の教育を担う体制にしているため、むしろ教育体制としては充実していると考えている旨を説明。移行期ではあるが専門学校の学生にとりマイナスではなくプラスになるように心がけ教育に臨みたい旨を説明し、学生へのサポートもより充実させていく予定であるため、今後もご理解とご支援をいただきたい旨を説明し委員の了承が得られた。

以上の結果を踏まえ、学校評価委員会としての報告として公開することについて、委員の了承が得られた。